

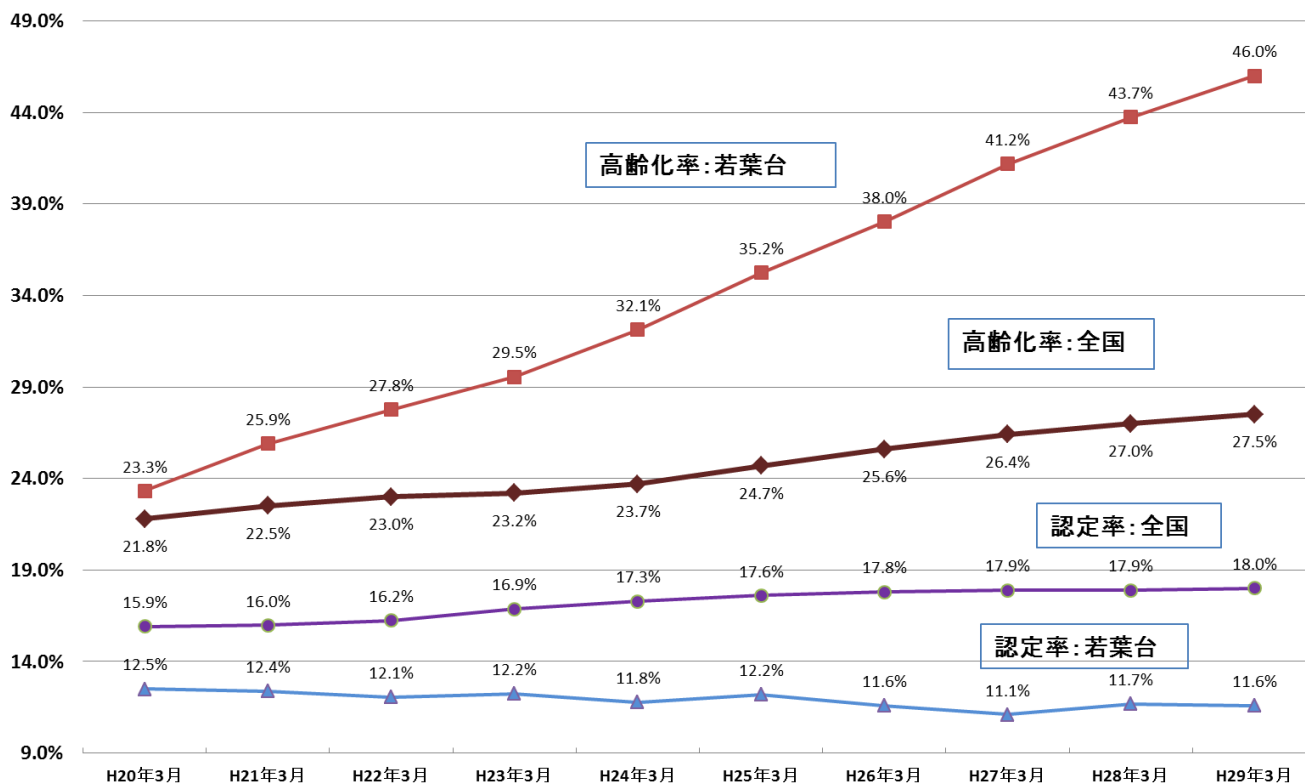
# 第 I 章 調査の概要

## 1. 調査の目的

若葉台は高齢化率が約 46.0%（平成 29 年 3 月時点、以下同じ）と全国や旭区の約 28%と比べて高齢者の割合が約 1.5 倍と高くなっている。一方、要介護認定率は 11.6%で、全国や旭区の約 18%と比べて約 2/3 程度と非常に低く、しかもここ 10 年間ほど低下の傾向を示している(資料参照)。本来、相関するであろう高齢化率と要介護認定率が若葉台では相関しない傾向がある。この要因を解明することで、若葉台住民の健康と暮らしに関する実態を明らかにするとともに、これからの更なる地域活動へのフィードバック、外部への P R、まちづくりの方向性を検討する材料として活用が期待される。

このような観点から、横浜市が平成 28 年度に実施した「健康とくらしの調査」（以下、「横浜市調査」と表記。「4. 本報告書で比較を行う横浜市調査概要」参照）の調査内容を基に、独自の質問項目を加えた調査を行い、若葉台住民の要介護認定率が低い要因を明らかにすることを目的とする。

資料 要介護認定率と高齢化率(全国・若葉台)



出典：総務省統計局「人口推計」、横浜市「統計ポータル」の「町別年齢別人口」、厚生労働省「統計情報」の「介護事業状況報告」、横浜市認定関係統計「要介護認定者数（町別）」、横浜市「統計ポータル」の「町別年齢別人口」

## 2. 調査実施の概要

- (1) 調査対象者：若葉台1丁目～4丁目の分譲住宅及び賃貸住宅、全住戸 5,976 戸<sup>1</sup> (有料老人ホーム除く。入所者が要介護認定を受け又は各種サービスを施設内で享受できるため)。
- (2) 調査方法：各自治会が全住戸の郵便受けに調査票を配付し、回答済調査票は各自治会集会所に設置した回収ポストにて回収。65 歳以上の人が世帯に複数いる場合は、誕生日が最初にくる人に回答を依頼した。
- (3) 調査期間：平成 29 年 5 月 10 日～6 月 9 日
- (4) 調査事項
- |             |             |
|-------------|-------------|
| ①健康状態に関する事項 | ⑤心理状況に関する事項 |
| ②生活習慣に関する事項 | ⑥家庭に関する事項   |
| ③地域活動に関する事項 | ⑦就労状況に関する事項 |
| ④交友関係に関する事項 | ⑧老後に関する事項   |
- (5) 調査の主体：神奈川県住宅供給公社、一般財団法人若葉台まちづくりセンター  
なお、調査の実施にあたっては、日本老年学的評価研究 (JAGES)、横浜市及び旭区福祉保健センター、若葉台連自治会、若葉台住宅管理組合協議会、NPO 法人若葉台スポーツ・文化クラブ、認定 NPO 法人若葉台などの協力を得た。

---

<sup>1</sup> 参考戸数 (分譲住宅・賃貸住宅のみ)：1 丁目 1,301 戸、2 丁目 1,779 戸、3 丁目 1,003 戸、4 丁目 1,893 戸

### 3. 集計数・集計項目について

#### (1) 集計数についての注意

回収調査票のうち、記入された対象者の年齢が「65歳未満」の票は対象外とし、また、年齢が「無回答」の調査票は、年齢別の集計ができないため集計には含めていない。また対象者の中には要介護と要支援の認定を受けている人も含まれている。横浜市調査は要介護の人は調査対象者ではないため、本報告書で使う集計結果は認定を受けていないと回答した人及び要支援と回答した人のみに絞っている。回収数と65歳以上回収数、報告書集計数の結果は以下のとおりである。

回収数	65歳以上回収数 (65歳未満及び年齢無回答を除く)	報告書集計数 (65歳以上である要介護認定を受けていない高齢者(ただし要支援を含む))
2,363	2,328	2,229

#### (2) 地域診断項目(17項目)の定義

質問項目の集計のほか、横浜市調査と同様に健康に関する地域診断項目<sup>2</sup>の集計を行った。各地域診断項目の定義は以下のとおりである。

#### 「要介護リスク」

要介護リスク	設問番号	定義
①虚弱者割合	問1-4で「はい」／問4-15で「はい」 問4-16で「いいえ」／問4-17で「はい」 問4-1で「できない」／問4-2で「できない」 問4-10で「いいえ」／問4-11で「いいえ」 問4-5で「できない」 問3-2で「とても減っている」「減っている」 問3-8で「できない」／問3-9で「できない」 問4-14で「できない」 問3-6で「何度もある」「1度ある」 問3-7で「とても不安である」「やや不安である」 問1-3より、BMI=18.5未満 問2-1で「はい」／問2-2で「はい」 問2-3で「はい」 問3-1で「月1~3回」「年に数回」「していない」	20項目中10項目以上該当

<sup>2</sup> 介護予防の取り組みを推進し、地域ごとの問題、特徴を把握するために、日本老年学的評価研究(JAGES)により定められた指標を指す。日本老年学的評価研究とは、健康長寿社会をめざした予防政策の科学的な基礎づくりを目標とした研究プロジェクトで、平成28年度は全国の39の市町村と共同し、約28万人の高齢者を対象にした調査を行い、全国の大学・国立研究所などの30人を超える研究者が、多面的な分析を進めている。

②運動機能低下者割合	問3-8で「できない」／問3-9で「できない」 問4-14で「できない」 問3-6で「何度もある」「1度ある」 問3-7で「とても不安である」「やや不安である」	5項目中3項目以上 該当
③1年間の転倒あり割合	問3-6で「何度もある」「1度ある」	1項目中1項目該当
④物忘れが多い者の割合	問4-18で「はい」	1項目中1項目該当
⑤閉じこもり者割合	問3-1で「月1～3回」「年に数回」「していない」	1項目中1項目該当
⑥うつ割合	問4-19で「はい」／問4-20で「はい」 問4-21で「はい」／問4-22で「はい」 問4-23で「はい」	5項目中2項目以上
⑦口腔機能低下者割合	問2-1で「はい」／問2-2で「はい」 問2-3で「はい」	3項目中2項目以上 該当
⑧BMI18.5未満の者の割合	問1-3より、BMI=18.5未満	1項目中1項目該当
⑨要介護リスク者割合	問1-1で「女性」が1点 問1-2で「65-69歳」が0点、「70-74歳」が8点 「75-79歳」が15点、「80-84歳」が21点、「85歳以上」が25点 問4-1で「できない」が3点 問4-2で「できない」が1点 問4-5で「できない」が2点 問3-8で「できない」が5点 問3-9で「できない」が3点 問4-14で「できない」が3点 問3-6で「何度もある」「1度ある」が3点 問3-7で「とても不安である」「やや不安である」が3点 問1-3より、BMI=18.5未満が3点 問3-2で「とても減っている」「減っている」が3点	55点中22点以上
⑩認知症リスク者割合	問1-2で「75歳以上」が3点 問6-1-9で「していない」が1点 問1-7で「糖尿病」が1点 問4-18で「はい」が1点 以下の①～⑮の合計が【5点】以上で1点 ①問10-1で「いいえ」／②問10-2で「はい」 ③問10-3で「はい」／④問10-4で「はい」 ⑤問10-5で「はい」／⑥問10-6で「いいえ」 ⑦問10-7で「はい」／⑧問10-8で「いいえ」 ⑨問10-9で「はい」／⑩問10-10で「はい」 ⑪問10-11で「はい」／⑫問10-12で「いいえ」 ⑬問10-13で「いいえ」／⑭問10-14で「はい」 ⑮問10-15で「はい」がそれぞれ【1点】 問8-1で「そのような人はいない」が1点 問6-1-2で「参加していない」が1点 問4-1で「できない」が1点 問4-3で「できない」が1点 問4-4で「できない」が1点 問4-6で「いいえ」が1点 問4-7で「いいえ」が1点 問4-12で「いいえ」が1点	15点中7点以上

「就労」

就労	設問番号	定義
⑪就労していない者の割合	問 14-1 で「退職して現在就職していない」「職についたことがない」	1 項目中 1 項目該当

「社会参加」

社会参加	設問番号	定義
⑫スポーツの会参加者割合	問 6-1-2 で「週に 4 回以上」「週 2~3 回」「週 1 回」「月に 1~3 回」	1 項目中 1 項目該当
⑬趣味の会参加者割合	問 6-1-3 で「週に 4 回以上」「週 2~3 回」「週 1 回」「月に 1~3 回」	1 項目中 1 項目該当
⑭ボランティア参加者割合	問 6-1-1 で「週に 4 回以上」「週 2~3 回」「週 1 回」「月に 1~3 回」	1 項目中 1 項目該当
⑮学習・教養サークル参加者割合	問 6-1-6 で「週に 4 回以上」「週 2~3 回」「週 1 回」「月に 1~3 回」	1 項目中 1 項目該当
⑯特技や経験を他者に伝える活動参加者割合	問 6-1-8 で「週に 4 回以上」「週 2~3 回」「週 1 回」「月に 1~3 回」	1 項目中 1 項目該当

「社会的ネットワーク」

社会的ネットワーク	設問番号	定義
⑰友人知人と会う頻度が高い者の割合	問 7-1 で「週に 4 回以上」「週に 2~3 回」「週 1 回」「月 1~3 回」	1 項目中 1 項目該当

## 4. 本報告書で比較を行う横浜市調査概要

横浜市調査とは、平成28年度に34介護保険者39市町村を対象に行われた日本老年学的評価研究(JAGES)プロジェクト2016調査として、同年11月14日から12月5日までに神奈川県横浜市健康福祉局が実施した「健康とくらしの調査」<sup>3</sup>のことである。平成28年4月1日時点で65歳以上である要介護認定を受けていない高齢者(要支援を含む)が対象で、無作為抽出された20,700人(うち要支援967人)の対象者に郵送法で実施し、回収数(率)は15,036(72.6%)、集計数は14,573である。

また、日本老年学的評価研究(JAGES)プロジェクト2016調査では、各市町村の小地域別の集計も行った。横浜市調査でも18の区及び138の小地域(各地域ケアプラザ周辺地域)で集計がなされ、横浜市全体及び若葉台が位置する旭区のデータを、横浜市の許可を得て、本報告書では比較の対象として用いている。旭区の対象者は1,800人(うち要支援76人)で、回収数(率)は1,291(71.7%)、集計数は1,258である。

## 5. 本報告書を読む際の注意

(1) 本調査と日本老年学的評価研究(JAGES)プロジェクト2016調査で共通する質問項目と地域診断項目は、前述の横浜市調査の横浜市及び旭区の集計結果と比較を行い分析している。本調査独自の質問は、横浜市、旭区と比較ができないため若葉台のみの分析を掲載している。ただし、本調査の回答者と横浜市調査の横浜市全体及び旭区の回答者の年齢構成や性別に差がみられたため、比較は総数では行わず、5歳刻みの年齢別のみで分析している。なお、報告書内の「若葉台」は「第Ⅱ章7. 参考資料(横浜市調査地域別ランキング)」を除いて本調査を、「横浜市」と「旭区」は横浜市調査の調査結果を意味する。

(2) 本報告書の第Ⅱ章「調査結果の概要」では、健康長寿や地域づくり、地域活性化に関係性が強い調査項目及び地域診断項目をとりあげて、掲載している。第Ⅱ章「調査結果の概要」で掲載していない質問項目は「参考 集計結果表」を参照してほしい。

(3) 調査結果の数値は原則として回答率(%)を表記し、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。このため、単数回答の合計が100.0%とならない場合がある。また、一人の回答者が2つ以上の回答をしてもよい質問(複数回答)では、回答率が通常100.0%を上回る。

(4) 調査結果の分析記述においては、誤差を考慮し、回答者数が30人未満の場合は、分析の対象からは除いている。

---

<sup>3</sup> 調査の結果はホームページ(<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/kenkou-kurashi-chousa/jages2016houkokusho.pdf>)に掲載されている。掲載されていない旭区の年齢別地域診断項目のデータなどは横浜市健康福祉局より提供を受けた。

(5) 分析記述やグラフ・数表上で次の略称を使用している。

n : 回答者の数

— : 回答者がいないもの

0.0 : 表章単位に満たないが、回答者がいるもの

また、表中の「人数」は回答者数を、「サンプル数」は対象者数をそれぞれ示している。

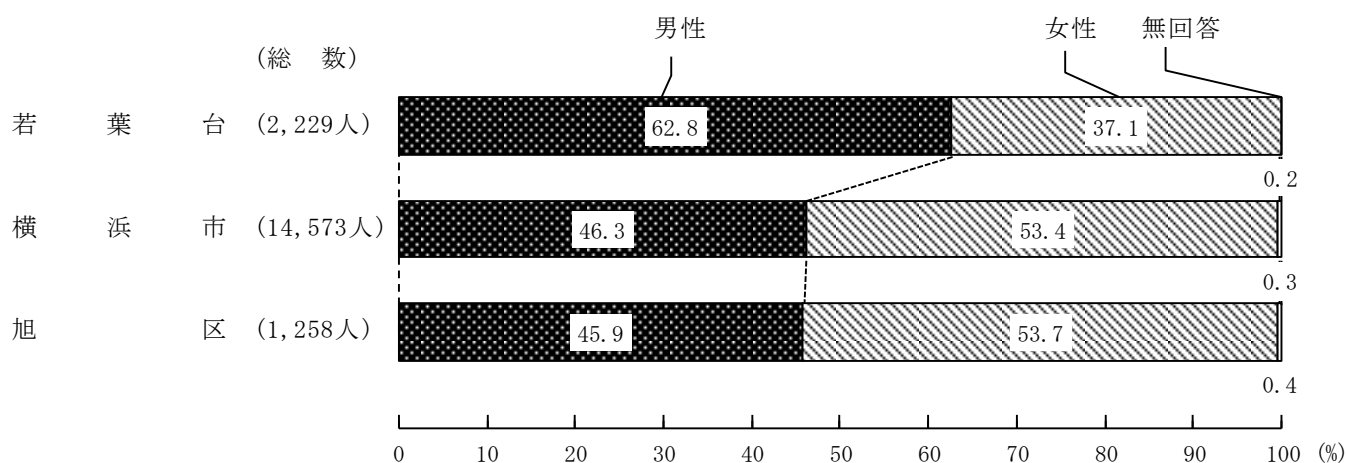
(6) 「参考 集計結果表」においては、スペースの都合上、調査票の質問文や選択肢を一部短縮している部分がある。

## 6. 調査対象の基本属性

対象地域全戸に投函した若葉台調査と、無作為抽出で調査を行った横浜市調査では、調査方法の違いから回答者の属性に違いが生じている。

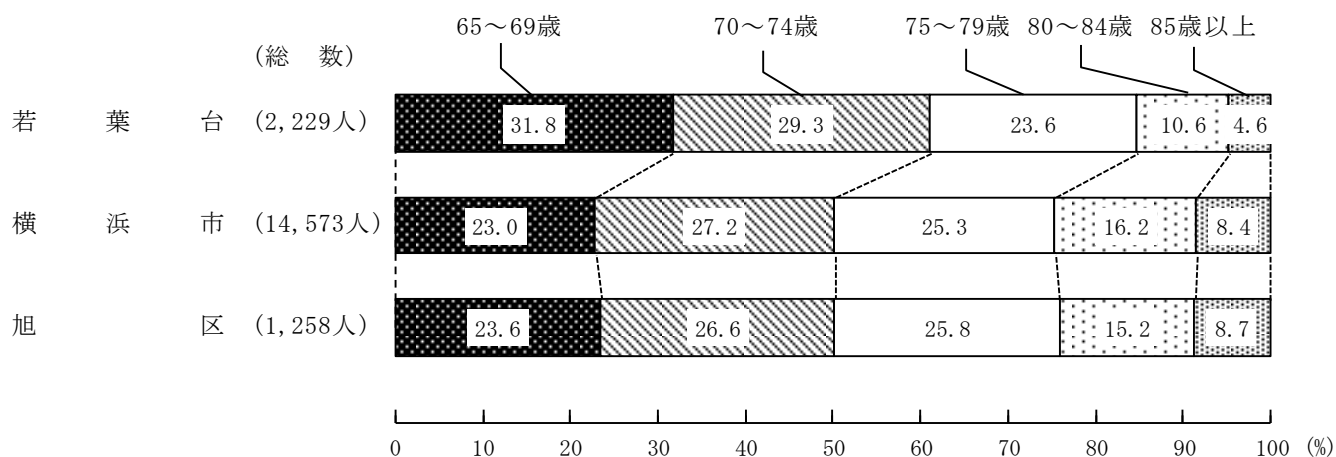
### (1) 性別

若葉台は、横浜市、旭区に比べて「男性」の割合が16ポイント以上高くなっている。これは、“一番早く誕生日が来る方”に回答をお願いしたにも関わらず、夫婦の世帯では世帯主である男（夫）が回答してしまったことが一因であると考えられる。



### (2) 年齢

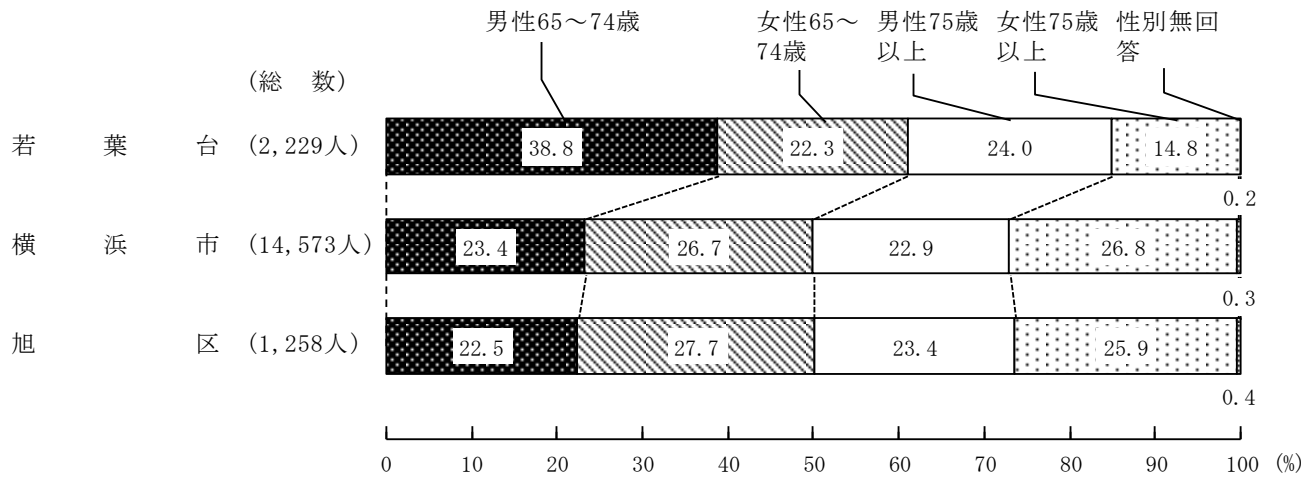
若葉台は、横浜市、旭区に比べて74歳以下の割合が10ポイント程度高くなっている。



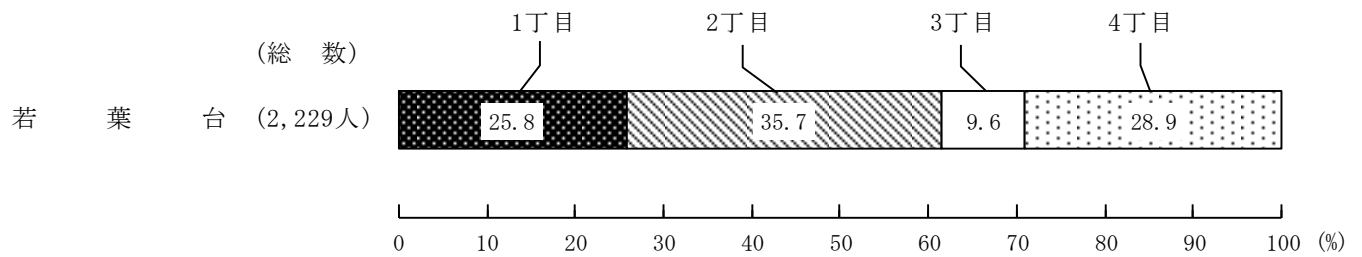


(3) 性・年齢(前期男性・前期女性・後期男性・後期女性の4区分)

若葉台は、横浜市、旭区に比べて、「男性65～74歳」の割合が15ポイント程度高く、「女性75歳以上」の割合は11ポイント程度低くなっている。



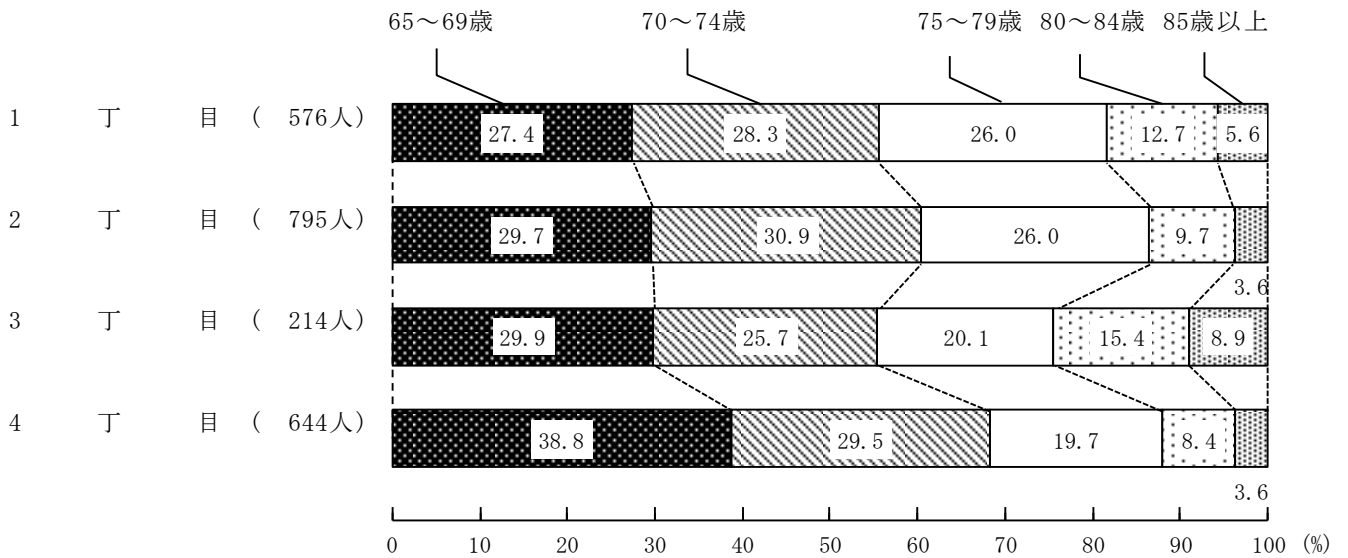
(4) 居住丁目



(若葉台調査独自の質問項目)

(5) 居住丁目・年齢層

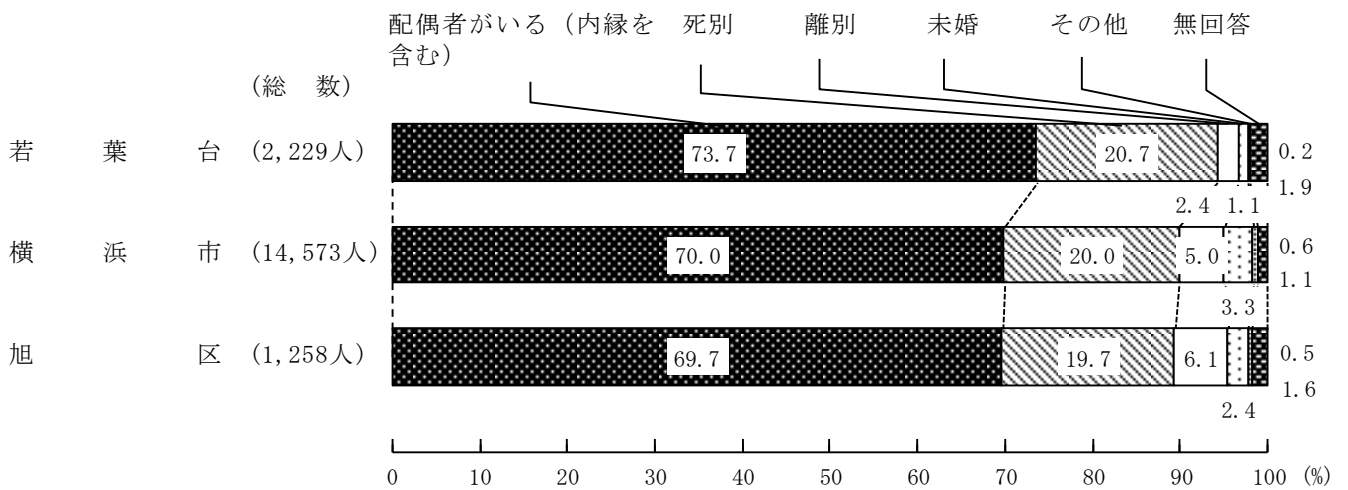
3丁目は、80歳以上の割合が他の丁目より高くなっている。また、4丁目は65～69歳が他の丁目よりも10ポイント程度高くなっている。



(若葉台調査独自の質問項目)

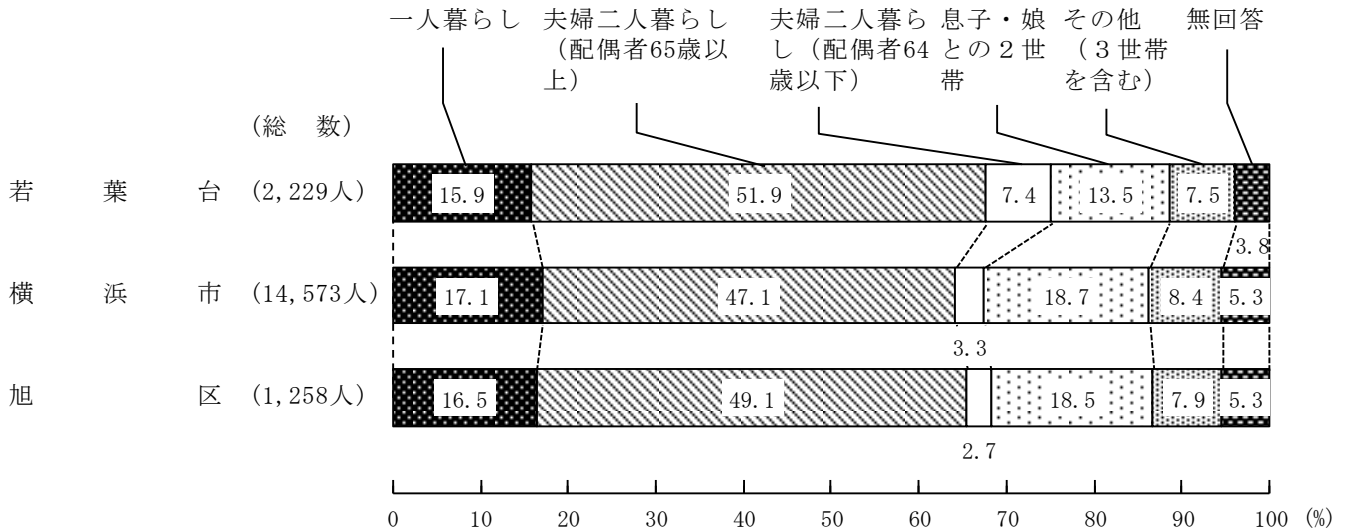
(6) 配偶者の有無

若葉台は、横浜市、旭区に比べて、「配偶者がいる（内縁を含む）」の割合がやや高くなっている。



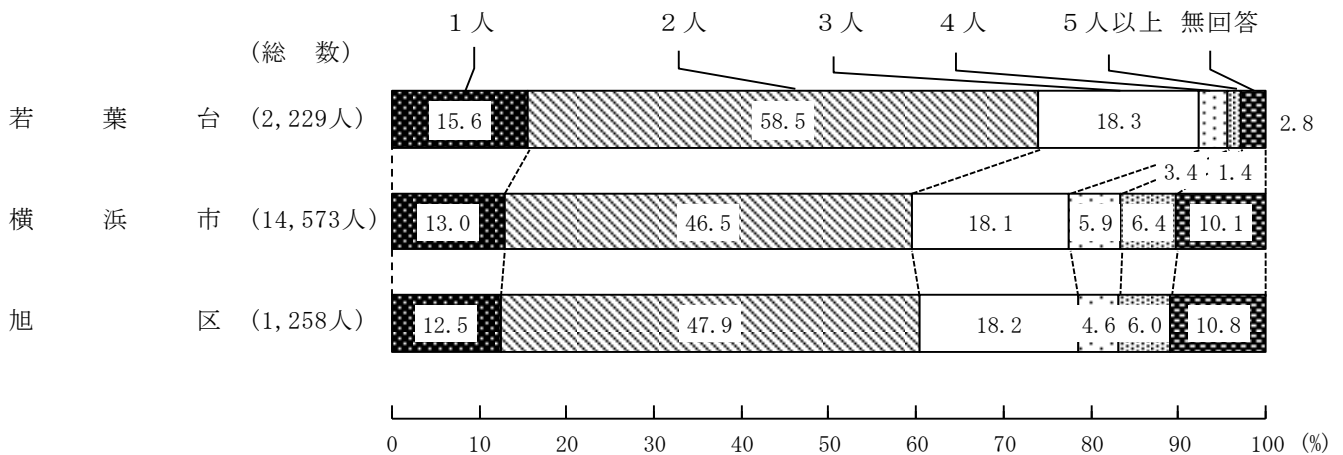
(7) 家族構成

若葉台は、横浜市、旭区に比べて、「夫婦二人暮らし（配偶者 65 歳以上）」と「夫婦二人暮らし（配偶者 65 歳以下）」を合わせた割合が 8 ポイント程度高く、「息子・娘との 2 世帯」の割合が 5 ポイント程度低くなっている。



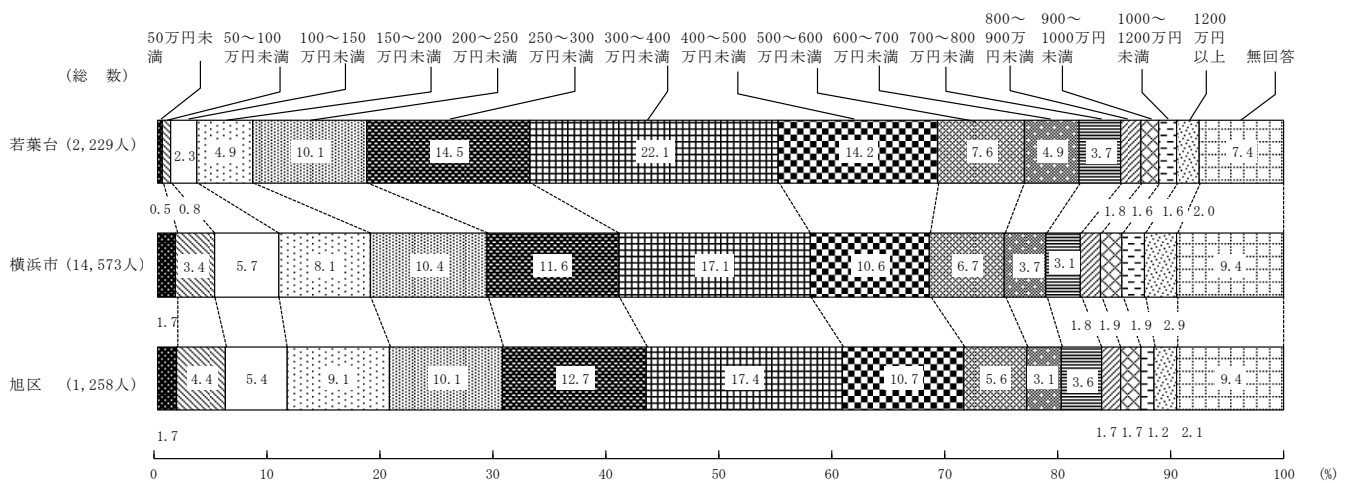
(8) 同居の人数

若葉台は、横浜市、旭区に比べて、「2人」の割合が 10 ポイント程度高く、「4人」以上が 6~7 ポイント程度低くなっている。



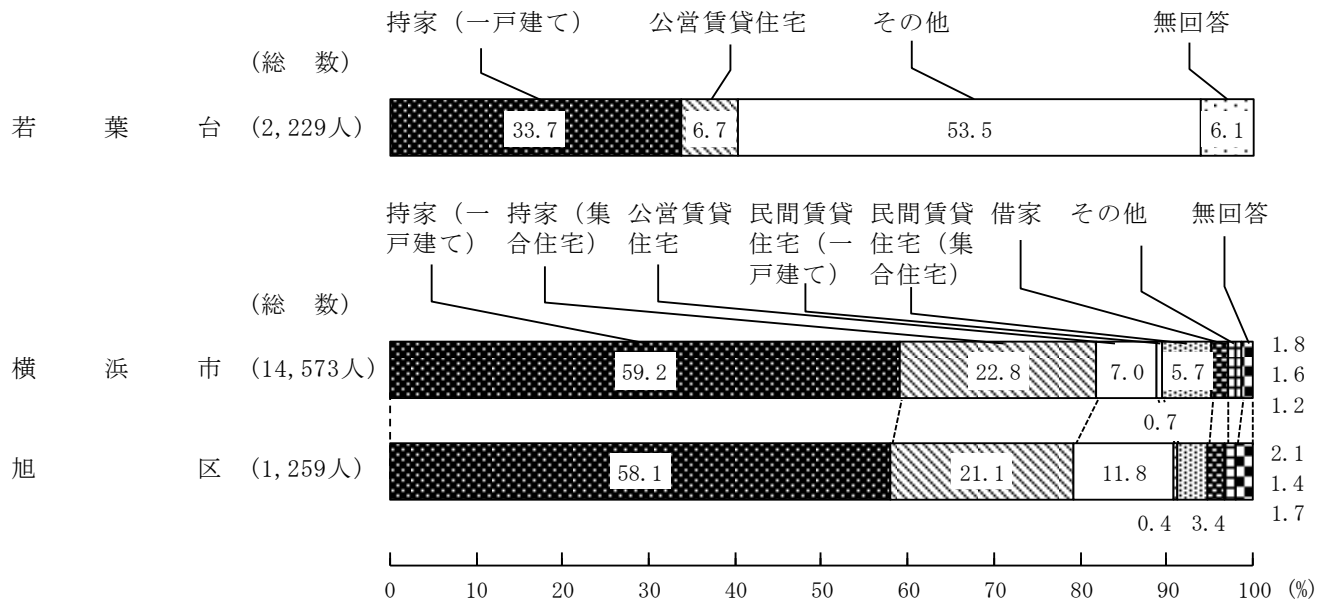
(9) 世帯年収

若葉台は、横浜市、旭区に比べて、300万円未満の割合が10ポイント程度低くなっている。



(10) 住居形態

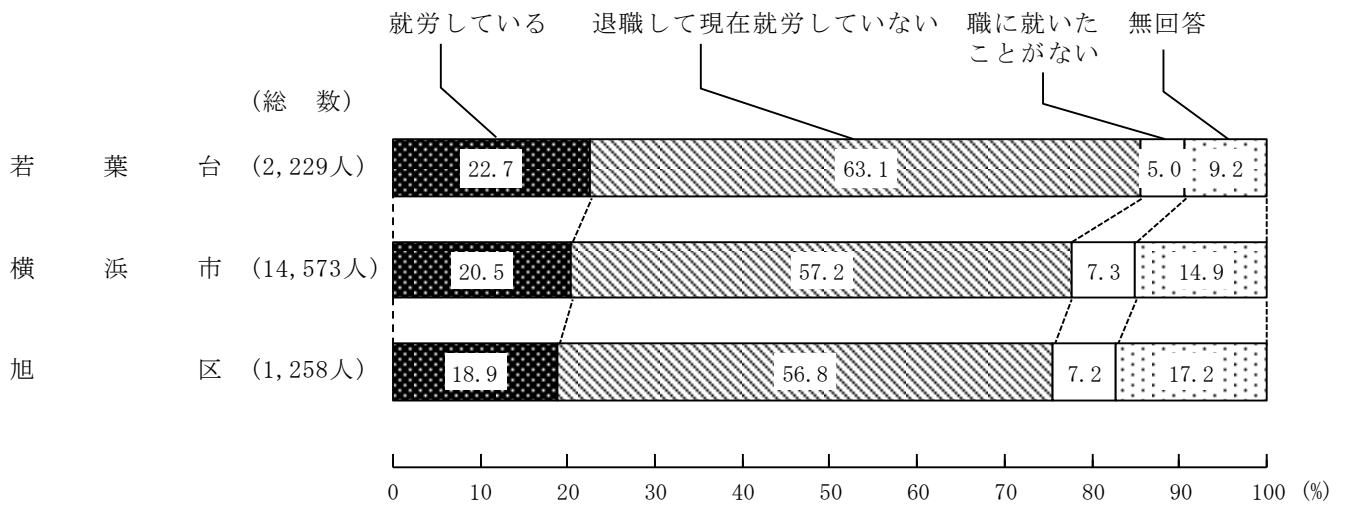
若葉台は神奈川県住宅供給公社の開発地域であるため、横浜市、旭区に比べて、「持家（一戸建て）」の割合が25ポイント程度低くなっている。なお、若葉台の「分譲共同住宅」に住む対象者は「持家（一戸建て）」または「その他」という回答を選んだことが予想される。



(若葉台調査と横浜市調査では選択肢が異なる)

(11) 就労形態

若葉台は、横浜市、旭区に比べて、「退職して現在就労していない」の割合が6ポイント程度高くなっている。



(12) 要支援認定の有無

若葉台、横浜市、旭区で大きな差はみられない。

